

3. 中心市街地の活性化の目標

〔1〕 基本計画の目標

中心市街地の活性化に向けては、「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」のスローガンのもと、2つの基本方針に基づき、次の目標を設定する。

(1) 基本方針①：行き交う人で賑わうまち

目標1：交流人口の拡大

行き交う人で賑わうまちを実現するには、中心市街地への来街者を増やす必要があることから、「**交流人口の拡大**」を目標とする。

事業の成果を測る上での客観的な指標として「**主要観光施設における観光客入込み数**」及び「**中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値**」を設定する。

(2) 基本方針②：住む人、働く人で賑わうまち

目標2：まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実

住む人、働く人で賑わうまちを実現するには、中心市街地で住居を構え生活する人や働く場所を増やす必要があることから、「**まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実**」を目標とする。

事業の成果を測る上での客観的な指標として「**中心市街地における居住人口の社会増減数**」及び「**中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数**」を設定する。

○目標及び目標指標

基本方針	目標	目標指標
行き交う人で賑わうまち	交流人口の拡大	主要観光施設における観光客入込み数
		中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値
住む人、働く人で賑わうまち	まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実	中心市街地における居住人口の社会増減数
		中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数

〔2〕計画期間の考え方

本計画の期間は、中心市街地活性化に向けて取り組む各種事業の実施時期や効果の発現を踏まえるほか、平成29年度からスタートする総合計画第3次基本計画・実施計画の計画期間との整合を図るため、平成29年4月から平成34年3月までの5年とする。

〔3〕基本計画で達成すべき数値目標の設定について

本計画の2つの目標にあわせ、それぞれ数値目標を以下のとおり設定する。

(1) 交流人口の拡大

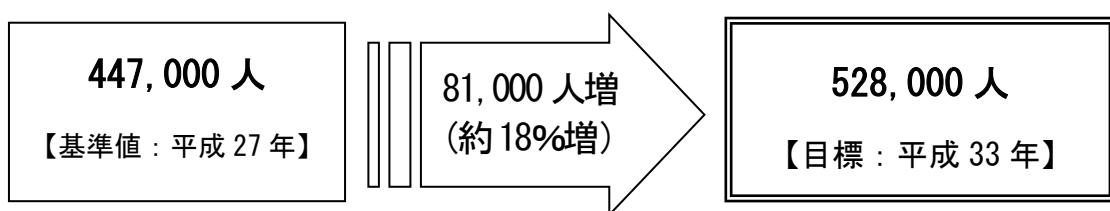
A 主要観光施設における観光客入込み

①数値目標設定の考え方

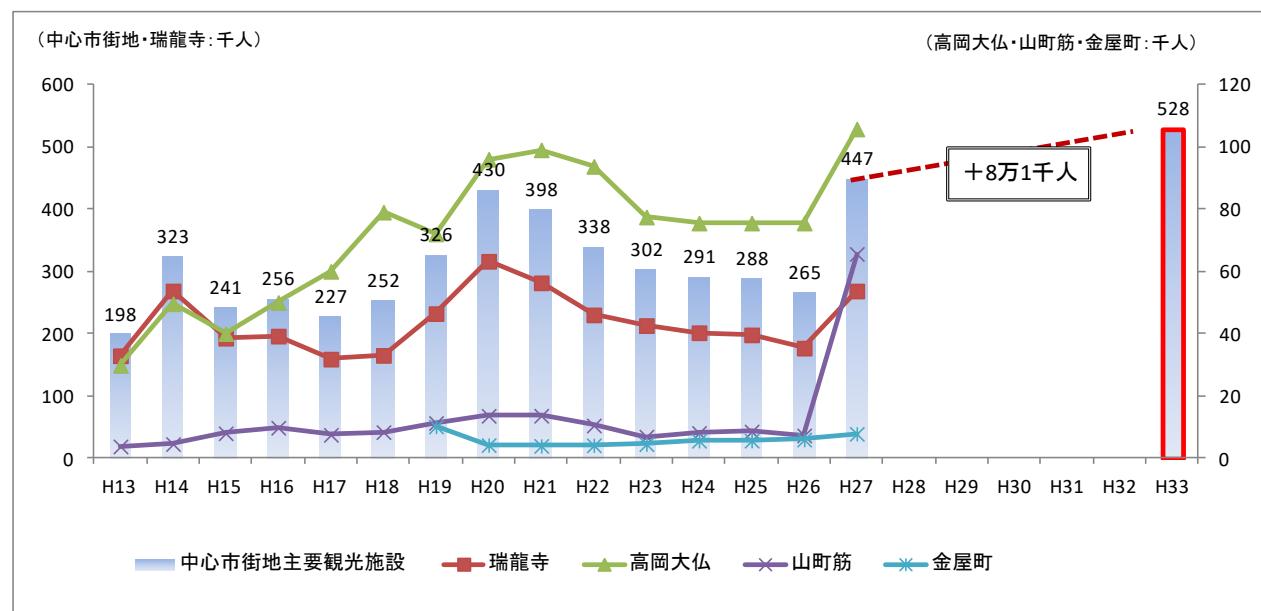
主要観光施設における観光客入込み数は、大河ドラマ「利家とまつ」が放送された平成14年に32万3千人と前年より大きく増加した。その後増減を繰り返し、東海北陸自動車道が全線開通した平成20年には43万人に達した。

平成21年以降は東海北陸自動車道全線開通の効果が薄ってきたこと及び震災の影響や団体需要の減少により観光客入込み数は減少基調となつたが、平成27年は北陸新幹線の開業効果もあって増加に転じ、過去15年間で最高の44万7千人を記録した。

本計画では、北陸新幹線開業を契機として増加した入込数を、「日本遺産」の認定及び「ユネスコ無形文化遺産」の登録を追い風として更に増加させ、交流人口拡大による中心市街地の賑わいを実感できる数値として、52万8千人を目標とする。



中心市街地の主要観光施設（古城公園を除く）における観光客入込数の推移



	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
瑞龍寺	164,400	268,400	192,650	196,000	159,030	165,000	232,120	316,100
高岡大仏	29,800	49,600	40,000	50,000	60,000	79,000	72,000	96,000
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)	3,770	4,525	7,977	9,778	7,490	8,361	11,292	13,609
金屋町(鎌物資料館)							10,178	4,207
合計	197,970	322,525	240,627	255,778	226,520	252,361	325,590	429,916

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
瑞龍寺	281,500	230,030	212,934	201,400	197,950	176,690	268,388
高岡大仏	99,000	93,700	77,440	75,500	75,500	75,500	105,700
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)	13,643	10,502	6,926	8,102	8,549	7,295	65,581
金屋町(鎌物資料館)	3,943	4,116	4,489	5,589	5,634	5,970	7,814
合計	398,086	338,348	301,789	290,591	287,633	265,455	447,483

※山町筋…H27の数値はH27年4月にオープンした「高岡御車山会館」の55,614人を算入したもの

②数値目標達成に向けて実施する事業の概要

前計画から実施している平成の御車山制作事業の継続や、高岡御車山祭のユネスコ無形文化遺産登録を契機に、これを常設展示している高岡御車山会館の運営事業の充実を図る。また、新たな観光・交流施設の整備として、歴史的資産を活用した町家再生事業、金屋鎌物師町交流館整備事業、旧赤レンガの銀行活用事業を実施する。併せて日本遺産魅力発信推進事業、呉西観光誘客推進事業を取り組む。

③各事業の実施による効果

i) 主要観光施設における観光客入込み数増加に直接的に寄与する事業

ア. 山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館、高岡御車山会館）及び

金屋町（鋳物資料館）への観光客の増加 **43,700人**

a) 歴史的資産を活用した町家再生事業

空き店舗となっている伝統的建造物を、リノベーションし建物の活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。

b) 旧赤レンガの銀行活用事業

現在銀行本店として使用されている建物を、高岡駅前東地区への移転後に新たな観光・交流施設として活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。

c) 金屋鋳物師町交流館整備事業

高岡鋳物発祥の地である金屋町の特性を活かし、地区住民及び来訪者の交流に資する施設を整備し活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。

『事業実施効果』

- ① a) の、再生後の町家（「山町ヴァレー」）への来館者見込みを1日50人（平成28年7月「高岡市山町筋まちづくり計画」より）とし、年間入込数を次のとおり算出。 $50\text{人} \times 305\text{日} = 15,250\text{人} \cdots A$
- ② b) の、旧銀行を活用した施設の来館者見込みを1日40人とし、年間入込数を次のとおり算出。 $40\text{人} \times 365\text{日} (\text{無休}) = 14,600\text{人} \cdots B$
- ③ c) の、鋳物師町交流館への来館者見込みを1日30人とし、年間入込数を次のとおり算出。 $30\text{人} \times 305\text{日} = 9,150\text{人} \cdots C$
- ④ 富山県内における観光入込数と、観光地点別入込数合計とを比較し、1人あたりの平均施設訪問数を算出。 1人平均2.3箇所 $\cdots D$

	H24	H25	H26	計
入込数	7,391	8,971	9,996	26,358
(うち県外)	4,302	5,172	5,287	14,761
(うち県内)	3,089	3,799	4,709	11,597
(県内比率)	0.418	0.423	0.471	0.44
地点別計	17,737	21,573	22,147	61,457
平均訪問数	2.4	2.4	2.2	2.3

観光庁「全国観光入込客統計に関する共通基準」より引用

- ⑤ 高岡市または富山県西部の他の5市を目的地とする観光客のうち、高岡市内の観光施設を訪問する比率を算出。

(1人あたり訪問数をD=2.3箇所として、)

高岡市： $1 + (1.3 \times 0.09) = 1.12 \cdots E$ / 他5市：0.6 … F

	標本数	高岡立寄	立寄率
射水	45	37	0.82
氷見	94	55	0.59
砺波・小矢部	59	42	0.71
南砺	98	44	0.45
計	296	178	0.60
	標本数	高岡のみ	比率
高岡	94	8	0.09

平成24年「新幹線開業記念PRイベント検討事業報告書」(高岡市観光交流課)

- ⑥ 以上に基づき、新たに整備した施設の入込数から、波及的に入込が期待できる数値を算出。
 $(A + B + C) \times (E)$
 $(15,250 + 14,600 + 9,150) \times (1.12) = 43,700 \text{ 人}$

イ. 高岡御車山会館への観光客の増加 15,500 人

a) 高岡御車山会館運営事業、平成の御車山制作事業

高岡御車山祭が「ユネスコ無形文化遺産」に平成28年12月に登録されたこと及び平成24年より制作を進めていた平成の御車山が平成29年に完成することから、高岡御車山会館を訪れる観光客の増加を見込む。

«事業実施効果»

- ① 高岡市を代表する観光地・瑞龍寺が平成9年の国宝指定を受けた翌年から4年間の入込数の平均上昇率を算出。 28%増 … G

(平成14年は大河ドラマ効果で入込数が増大(268,400人)したことから除外)

瑞龍寺の国宝指定後の入込数の変化と上昇率

	H9	H10	H11	H12	H13	平均
入込数	119,200	170,700	138,800	136,000	164,400	
H9 比		0.43	0.16	0.14	0.38	0.28

- ② 高岡御車山会館の平成27年入込数(H)に上記Eを乗じ、その増加人数を算出。 $(H) \times (G) - H$

$(55,600 \text{ 人} \times 1.28) - 55,600 \text{ 人} = 15,500 \text{ 人}$

ii) 主要観光施設における観光客入込み数増加に間接的に寄与する事業

ウ. インバウンド需要の増加及び広域観光の推進による観光客増加

21,900人

a) 日本遺産魅力発信推進事業

高岡市の日本遺産認定を契機とする海外プロモーション事業展開、及び政府のビジット・ジャパン事業、東京オリンピック・パラリンピック開催等によるインバウンド需要の増加により、高岡市を訪れる観光客の増加を見込む。

《事業実施効果》

① 2020年（平成32年）における政府の訪日外客数目標である4,000万人に準じた富山県の延べ宿泊数を割り出し、県内における高岡市の比率を乗じたものを算出。（平成33年は前年値を維持することとする）

(a) × (e) × (f) × (g)

$$40,000 \text{千人} \times 3.3 \times 0.34\% \times 4.4\% \doteq 19,700 \text{人} \cdots \text{I}$$

訪日外客数、延べ宿泊者数(全国計、富山県、高岡市)およびその比率 単位:千人

	H24	H25	H26	H27	平均	H32目標
訪日外客数 (a)	8,358.1	10,363.9	13,413.5	19,737.4		40,000
都道府県別 宿泊数の合 計値(b)	26,314.3	33,495.7	44,824.6	65,614.6		(132,000)
富山県(c)	94	136.3	142.1	207.8		(448.8)
高岡市(d)	4.3	6	6.4	8.8		(19.7)
平均宿泊数 e(b/a)	3.1	3.2	3.3	3.3	3.3	
富山県比率 f(c/b)	0.0036	0.0041	0.0032	0.0032	0.0034	
高岡市比率 g(d/c)	0.046	0.044	0.045	0.042	0.044	

観光庁「宿泊旅行統計調査」より引用

② 上記Iから平成27年値を減じ、高岡市内の平均訪問数（前述E）を乗じたものからその増分を算出。

$$(19,700 \text{人} (\text{I}) - 8,800 \text{人}) \times 1.12 \text{箇所} (\text{E}) \doteq 12,200 \text{人}$$

b) 呉西観光誘客推進事業

富山県西部地域（吳西地域）の6つの市が互いに連携し、北陸新幹線を活用した旅行商品の造成や共同プロモーションに取り組むことにより、高岡市を訪れる観光客の増加を見込む。

『事業実施効果』

- ① 北陸新幹線新高岡駅における実態調査及び利用者アンケートに基づく、主な目的地と観光目的の比率を算出。

調査曜日	降車人数 (a)	アンケート回答者(b)	うち県外居住(c)	うち高岡目的(d)	うち他市目的(e)	観光目的比率(f)
土曜	2,672	360	67	27	18	0.43
日曜	3,399	302	53	21	22	0.4
木曜	1,976	258	49	22	15	0.24

平成27年「新高岡駅利用実態調査及び課題等検討業務報告書」

（新幹線まちづくり推進高岡市民会議。調査は平成27年6月実施）

- ② 上記に基づき、高岡市並びに他5市の年間における観光目的降車人数、および観光入込数を算出。

$$\cdot \text{曜日毎} : (a) \times (f) \times (d \text{ または } e) \times ((c) \div (b))$$

$$\cdot \text{年間値} : (\text{土曜} + \text{日曜} + (\text{木曜} \times 5)) \times 52 \text{ 週}$$

$$\rightarrow \text{高岡市目的} : 19,812 \text{ 人} \cdots J$$

$$\text{他市目的} : 15,392 \text{ 人} \cdots K$$

※瑞龍寺の直近5年における、全体入込数に対する6月の比率が0.8~0.9と概ね各月の平均に相当することから、単純計算で年間値を算出。

- ③ 上記①～②の値にEおよびFを乗じて高岡市への入込数（平成27年）を算出した上で、吳西観光誘客推進事業により1日あたり30人の降車人数増を見込み、その差分（増加値）を算出。

$$\cdot \text{高岡市分} : (J) \times (E) = 19,812 \text{ 人} \times 1.12 \text{箇所} = 22,189 \text{ 人} \cdots L$$

$$\cdot \text{他市立寄分} : (K) \times (F) = 15,392 \text{ 人} \times 60\% = 9,235 \text{ 人} \cdots M$$

$$\rightarrow 22,189 \text{ 人} + 9,235 \text{ 人} = 31,424 \text{ 人} \cdots N$$

$$\cdot \text{増加目標値} : \text{市内} (L) + (30 \text{ 人} \times 1.12 \text{ 箇所} \times (J \div (J+K)))$$

$$22,189 \text{ 人} + 6,883 \text{ 人} = 29,072 \text{ 人}$$

$$\text{他市} ((M) + (20 \text{ 人} \times (K \div (J+K)))) \times 0.6$$

$$9,235 \text{ 人} + 2,865 \text{ 人} = 12,100 \text{ 人}$$

$$\text{計} : 29,072 \text{ 人} + 12,100 \text{ 人} = 41,172 \text{ 人}$$

$$\cdot \text{差分} : 41,172 \text{ 人} - N (31,424 \text{ 人}) \div 9,700 \text{ 人} \cdots O$$

エ. その他の事業による波及効果

主要観光施設における観光客入込み数の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 文化遺産群の歴史調査及び保存修理に関する事業

個々の文化遺産の歴史的価値の検証のため、史跡調査等に取り組むとともに、適切な保存修理に取り組むことにより、歴史的・文化的価値の維持、向上を図る。

- ・高岡御車山保存修理事業
- ・高岡御車山祭
- ・瑞龍寺保存修理事業
- ・前田利長墓所保存修理事業
- ・山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業
- ・金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業
- ・高岡城跡保存整備事業

b) 文化遺産群の活用に関する事業

文化遺産群の保存に努めるだけではなく、文化遺産の価値向上を図るための整備を行うとともに、文化遺産の見学機能の充実や文化遺産を活用したイベントの開催等により、観光客の誘致とリピート率の向上を図る。

- ・高岡市鎌物資料館運営事業
- ・重要文化財菅野家住宅運営事業
- ・高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業
- ・大学連携による伝統・文化再生事業
- ・ミラレ金屋町開催事業（旧金屋町楽市開催事業）
- ・瑞龍寺ライトアップ事業
- ・「高岡御車山」臨時山倉設置事業
- ・中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業
- ・中心商店街活性化イベント開催事業
- ・文化遺産活用イベント開催事業
- ・高岡万葉遊楽宴事業
- ・「近世高岡の文化遺産を愛する会」の活動
- ・金屋町定住体験施設整備事業
- ・まちづくり資金支援事業
- ・高岡クラフト市場街(いちばまち)開催事業

c) 文化遺産群の周辺環境整備に関する事業

文化遺産の価値を高めるには、文化遺産の保存、活用を図るだけでなく、文化遺産周辺における観光関連店舗の誘致やフィルムコミッショング事業等による従来とは異なる観光視点を提供するなど、周辺環境を整備すること

により、対象となる観光客属性の拡大を図る。

- ・フィルムコミュニケーション事業
- ・観光施設・設備等維持管理事業
- ・T R @ P 事業
- ・食のブランド化推進事業
- ・工芸都市高岡クラフト展開催事業
- ・観光地における開業支援事業
- ・観光バス市営駐車場料金補助事業
- ・賑わい集積開業等支援事業

d) 文化遺産群の回遊性の向上に関する事業

個々の文化遺産の価値向上を図ることにより誘客を推進するだけでなく、来訪した観光客が複数の文化遺産を回遊しやすくなるため、文化遺産同士を繋ぐための歩きやすい道路整備や誘導案内板の整備等をはじめ、ITを活用した観光情報の発信、レンタルサイクルの設置、コンベンションによる宿泊客への無料観覧券の配付等、ハード・ソフト両面にわたる環境整備により、回遊性の向上を図る。

- ・誘導標識設置等事業
- ・都市計画道路高岡駅波岡線整備事業
- ・たかまちプロムナード事業
- ・まちなか情報発信事業
- ・シルバーサロン坂下小路運営事業
- ・コロッケのまちづくり事業
- ・たかおか観光戦略ネットワーク事業
- ・コンベンション開催支援事業
- ・まちの駅ネットワーク事業
- ・お祭りシャトルバス事業
- ・レンタルサイクル事業
- ・歴史都市高岡周遊観光バス事業
- ・高岡地域地場産業センター運営事業

iii) 中心市街地主要観光施設入込み数の増加目標値（まとめ）

観光客入込数増加内訳		増加数
ア	山町筋及び金屋町への観光客増加数	43,700人
イ	高岡御車山会館への観光客増加数	15,500人
ウ	インバウンド需要の増加及び広域観光の推進による観光客増加数	21,900人

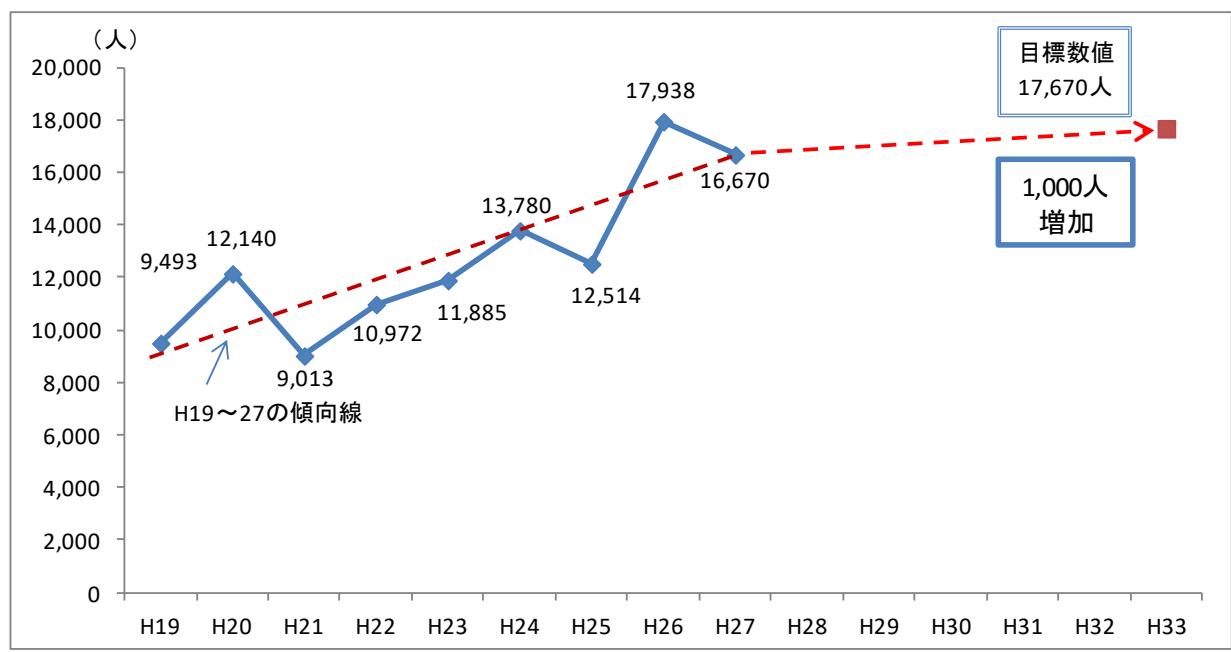
合計	81,100人	
よって、目標となる観光客入込み数は、下記の通りとなる。		
(H27年観光客入込数)	(増加見込)	(H33年目標値)
447,000人	81,000人	528,000人
④フォローアップの考え方		
<p>観光客入込み数は、各施設により測定している数値を、4半期ごとに高岡市が調査を行っている。この数値を根拠とすることにより、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、事業について毎年度進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。</p>		
B 中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値		
①数値目標設定の考え方		
<p>「歩行者・自転車通行量」は、平成6年から10月中旬の金曜日（平日）及び日曜日（休日）に計測している。なお、本計画から指標とする調査地点である大仏前と山町筋（木舟町）については、平成19年から計測を行っている。</p>		
<p>「中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」は、平成19年以降、前々計画からの高岡駅周辺整備事業や観光地の魅力を高める各種取り組みにより増加基調が続いているが、平成27年は北陸新幹線開業に伴う特急列車の廃止等の影響により減少に転じている。</p>		
<p>本計画では、居住人口の減少が見込まれる状況において、交流人口の拡大や昼間人口の増加による来街者の増加に取り組み、中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値を17,670人として設定する。</p>		
16,670人 【現状：平成27年】	 17,670人 【目標：平成33年】	

【歩行者・自転車通行量 6 調査地点】



- ① 高岡駅前（人工デッキ）
- ② 末広町（西）
- ③ 末広町（東）
- ④ 御旅屋通り
- ⑤ 大仏前
- ⑥ 山町筋（木舟町）

中心商店街・観光地周辺(6 地点)における歩行者・自転車通行量（平日・休日平均）の推移



	H19		H20		H21		H22		H23	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
高岡駅前	2,488	1,842	2,530	2,173	2,388	1,785	2,659	1,995	2,048	2,028
末広町(西)	1,559	1,202	1,948	1,871	2,134	1,367	2,418	1,864	2,125	2,649
末広町(東)	1,742	1,469	1,632	1,489	1,498	1,050	1,808	1,408	1,592	1,645
御旅屋通り	2,704	2,828	3,140	4,196	2,465	1,989	2,411	2,943	2,133	5,210
大仏前	1,220	927	1,819	2,404	1,449	949	1,602	1,816	1,396	2,080
山町筋(木舟町)	538	467	561	517	532	419	501	518	476	387
6地点計	10,251	8,735	11,630	12,650	10,466	7,559	11,399	10,544	9,770	13,999
6地点計(平均)	9,493		12,140		9,013		10,972		11,885	

	H24		H25		H26		H27	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
高岡駅前	5,892	6,746	5,889	6,073	10,664	11,757	9,824	9,866
末広町(西)	1,705	1,312	1,737	945	1,530	1,250	1,656	1,456
末広町(東)	1,046	1,020	1,142	681	1,012	925	1,058	952
御旅屋通り	1,398	3,663	2,736	2,222	1,790	2,259	1,301	1,446
大仏前	1,194	2,607	1,991	1,068	1,663	2,102	2,137	2,546
山町筋(木舟町)	377	600	357	186	535	389	532	567
6地点計	11,612	15,948	13,852	11,175	17,194	18,682	16,508	16,833
6地点計(平均)	13,780		12,514		17,938		16,670	

※高岡駅前の調査地点は、H19～H23 駅前地下街、H24, H25 は万葉ロード、H26～人工デッキ

②数値目標達成に向けて実施する事業の概要

高岡駅周辺においては、隣接する高岡駅前東地区において平成29年春の富山県高岡看護専門学校の開校やホテルの開業に続き、更なる整備（銀行本店の移転、共同住宅の建設等）を促進し拠点性を高める。中心商店街では、共同住宅と商業・公益施設の複合ビルを整備する。観光地では、新たな賑わいを創出する施設整備を進める。併せて、観光地周辺から中心商店街への回遊促進に向けた取り組みを継続的に実施する。

③各事業の実施による効果

i) 歩行者・自転車通行量の増加に直接的に寄与する事業

ア. 富山県高岡看護専門学校運営事業による効果

180人

a) 富山県高岡看護専門学校運営事業

平成29年4月に、市内看護専門学校3校が統合した新しい看護専門学校（定員360名）が高岡駅前東地区で開校する。県西部地域はもとより、県内外から学生が高岡駅周辺に日常的に集まることによって、歩行者通行量の増加が期待される。

《事業実施効果》

看護専門学校の学生の高岡駅及びクルン高岡の想定利用者数から算出

A 看護専門学校の定員（3学年計）360人

B 高岡駅及びクルン高岡の想定利用率50%

A × B × 2（往復）÷ 2（休日は学校が休みのため効果は見込めない）

= 360人 ×50% × 2 ÷ 2 = 180人

イ. 高岡駅前東地区整備事業による効果 280人

a) ホテルの開業による効果

平成29年春に新たに客室数207室のホテルが開業する。ホテル宿泊者が高岡駅周辺を行き来することによって、歩行者通行量の増加が期待される。

《事業実施効果》

ホテル宿泊者の高岡駅及びクルン高岡の想定利用者数から算出

A ホテルの客室数 207室（主にシングル）

B ホテルの想定稼働率 70%

C 高岡駅及びクルン高岡の想定利用率 50%

$$A \times B \times C \times 2 \text{ (往復)} = 207 \text{人} \times 70\% \times 50\% \times 2 \approx 145 \text{人}$$

b) 銀行本店の移転による効果

平成31年に銀行の本店が移転し開業する。銀行の利用者や従業員が高岡駅周辺を行き来することによって、歩行者通行量の増加が期待される。

《事業実施効果》

銀行利用者と従業員の高岡駅及びクルン高岡の想定利用者数から算出

A 銀行利用者及び従業員想定数 約250人

B 高岡駅及びクルン高岡の想定利用率 10%

$A \times B \times 2 \text{ (往復)} \div 2 \text{ (休日は銀行が休みのため効果は見込めない)}$

$$= 250 \text{人} \times 10\% \times 2 \div 2 = 25 \text{人}$$

c) 共同住宅の建設による効果

計画期間内において共同住宅の建設が見込まれており居住者が増加する。

共同住宅居住者が高岡駅周辺を行き来することによって、歩行者通行量の増加が期待される。

《事業実施効果》

共同住宅居住者の高岡駅及びクルン高岡の想定利用者数から算出

A 共同住宅の想定戸数 70戸（ファミリー用と単身用が半々と想定）

B 中心市街地における1世帯あたりの平均人員 2.25人

C 高岡駅及びクルン高岡の想定利用率 50%

$A \div 2 \text{ (半数はファミリー用)} \times B \approx 78 \text{人}, A \div 2 \text{ (半数は単身用)} = 35 \text{人}$

$$(78 \text{人} + 35 \text{人}) \times C \times 2 \text{ (往復)} \approx 110 \text{人}$$

$$\text{上記 } a + b + c = 145 + 25 + 110 = 280 \text{人}$$

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による効果

440人

a) 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）

平成31年春に共同住宅（98戸）、商業施設、公益施設が入る複合ビルが完成し居住人口が増加する。居住者が周辺を行き来することによって、歩行者通行量の増加が期待される。

『事業実施効果』

入居見込み数と通過が見込まれる地点数から算出

A 共同住宅の戸数 98戸（全てファミリー用）

B 中心市街地における1世帯あたりの平均人員 2.25人

C 通過する調査地点 2か所（末広町（西）他1か所を想定）

A × B × C = 98戸 × 2.25人 × 2か所 = 440人

エ. 歴史的資産を活用した町家再生事業による効果

100人

a) 歴史的資産を活用した町家再生事業

新たに整備される観光・交流施設に訪れる観光客の増加により、歩行者通行量の増加が期待される。

『事業実施効果』

来場見込み数と通過が見込まれる地点数から算出

A 来場見込み数 1日当たり約50人

B 通過する調査地点 1か所（山町筋（木舟町））

A × B × 2（往復）= 50人 × 1か所 × 2（往復）= 100人

ii) 歩行者・自転車通行量の増加に間接的に寄与する事業

カ. その他の事業による波及効果

中心商店街・観光地周辺の歩行者・自転車通行量の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 交通基盤・地域交通網の整備に関する事業

高岡駅の利便性向上のために周辺施設とともに、道路網の整備やコミュニティバスの運行に取り組むことにより、高岡駅の集客力が高まり、回遊性の向上が期待できる。

- ・誘導標識設置等事業
- ・高岡駅前東自転車駐車場整備事業
- ・都市計画道路高岡駅波岡線整備事業
- ・コミュニティバス事業

- ・レンタルサイクル事業
- ・歴史都市高岡周遊観光バス事業

b) まちなか居住支援に関する事業

中心市街地における居住を促進し、域内人口を増加させることにより、域内移動の活性化が図られ、回遊性の向上が期待できる。

- ・まちなか住宅取得支援事業
- ・まちなか耐震住宅リフォーム支援事業
- ・まちなか共同住宅建設促進事業
- ・まちなか優良賃貸住宅補助事業
- ・まちなかエコ・バリアフリーリフォーム支援事業
- ・移住促進のための空き家改修支援事業
- ・地域ぐるみ空き家対策モデル地区支援事業
- ・空き家対策計画に基づく事業
- ・坂下町通り景観づくり住民協定地区修景等助成事業

c) イベントの開催による回遊性の向上に関する事業

定期的にさまざまなイベントを開催することにより、中心市街地への来街機会を増大させる。満足度の高いイベントの開催により、平時においても来街機会の向上が期待されることから回遊性の向上が期待できる。

- ・大学連携による伝統・文化再生事業
- ・工芸都市高岡クラフト展開催事業
- ・高岡クラフト市場街(いちばまち)開催事業
- ・中心商店街活性化イベント開催事業
- ・個別商店街の活性化事業
- ・高岡駅周辺にぎわい創出事業
- ・たかまちプロムナード事業
- ・御旅屋賑わい創出事業
- ・リトルウイング賑わい創出事業
- ・たかまちおでかけウォーク事業
- ・若者チャレンジ応援事業
- ・まちなか活き・粹スポット推進事業

d) 魅力ある商空間形成に関する事業

魅力ある商空間形成に努めるため、中心市街地において、個々の地域特性に応じた開業を支援するほか、既存店舗のリニューアルを支援するとともに、若手事業者の事業意欲の向上を支援することにより、回遊性の向上が期待できる。

- ・観光地における開業支援事業
- ・中心市街地における開業支援事業

- ・中心市街地における既存店舗リニューアル事業
- ・元気たかおか未来会議の開催
- ・各種ゼミ・研修会等の開催
- ・まちづくり資金支援事業
- ・賑わい集積開業等支援事業

e) 拠点機能の向上に関する事業

中心市街地における集客ポイントの機能向上を図ることにより、回遊性の向上が期待できる。

- ・山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業
- ・重要文化財菅野家住宅運営事業
- ・高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業
- ・ウイング・ウイング高岡運営事業
- ・高岡御車山会館運営事業
- ・平成の御車山制作事業
- ・高岡子育て支援センター運営事業
- ・勤労者福祉サービスセンター移転・運営事業
- ・第一種大規模小売店舗立地法特例区域の設定
- ・高岡駅前地下街公共スペース運営事業
- ・芸文ギャラリー運営事業
- ・中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業
- ・シルバーサロン坂下小路運営事業
- ・シルバーショップ運営事業
- ・朝市・夕市の開催
- ・高岡地域地場産業センター運営事業

f) 情報発信による回遊性の向上に関する事業

中心市街地に内包する各種情報を総合的に発信するとともに、従来の中心市街地のイメージとは異なる情報を付加することにより、新たな来街機会の誘発を行うことから回遊性の向上が期待できる。

- ・まちなかギャラリー事業
- ・まちなか情報発信事業
- ・コロッケのまちづくり事業
- ・T R @ P 事業
- ・食のブランド化推進事業
- ・フィルムコミッション事業
- ・たかおか観光戦略ネットワーク事業

g) 昼間人口の拡大に関する事業

昼間人口の拡大のため、オフィス誘導を図ることにより、回遊性の向上が

期待できる。

- ・中心市街地におけるオフィス開設支援事業
- ・まちなか第2SOHO支援オフィス整備事業

iii) 歩行者・自転車通行量の増加目標値（まとめ）

歩行者・自転車通行量増加内訳		増加数
ア	富山県高岡看護専門学校運営事業による効果	180人
イ	高岡駅前東地区整備事業による効果	280人
ウ	中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による効果	440人
エ	歴史的資産を活用した町家再生事業による効果	100人
合計		1,000人

よって、目標となる歩行者・自転車通行量は、下記の通りとなる。

(H27年通行量)	(増加見込)	(H33年目標値)
16,670人	1,000人	17,670人

【令和2年3月変更時の状況】

まちなか住宅取得支援事業、まちなか耐震住宅リフォーム支援事業、まちなかエコ・バリアフリーリフォーム支援事業の3事業を統合・拡張し、令和元年度からそれらに三世代同居リフォームを加えたたかおか暮らし支援事業と、県内外・老若男女問わず幅広い層からの誘引を図るためのeスポーツや5G等の次世代技術拠点施設整備事業を追加することで、目標指標「歩行者・自転車通行量の増加」の目標値1,000人の達成に寄与することから、事業追加を行う。

④フォローアップの考え方

歩行者・自転車通行量は、毎年10月に調査を実施している。これらの数値を根拠とすることにより、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、事業について毎年度進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

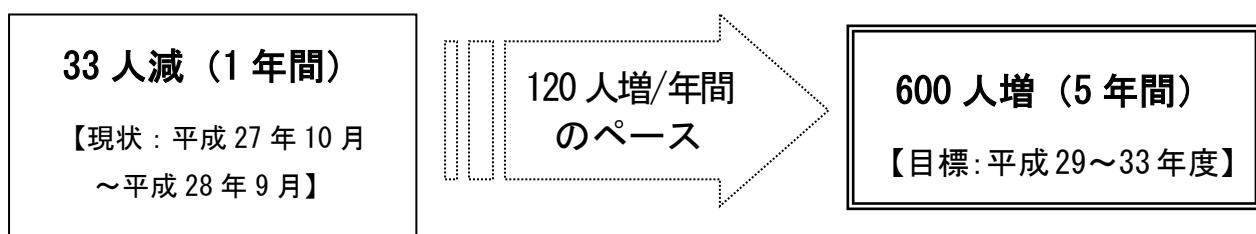
(2) まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実

A 中心市街地における居住人口の社会増減数

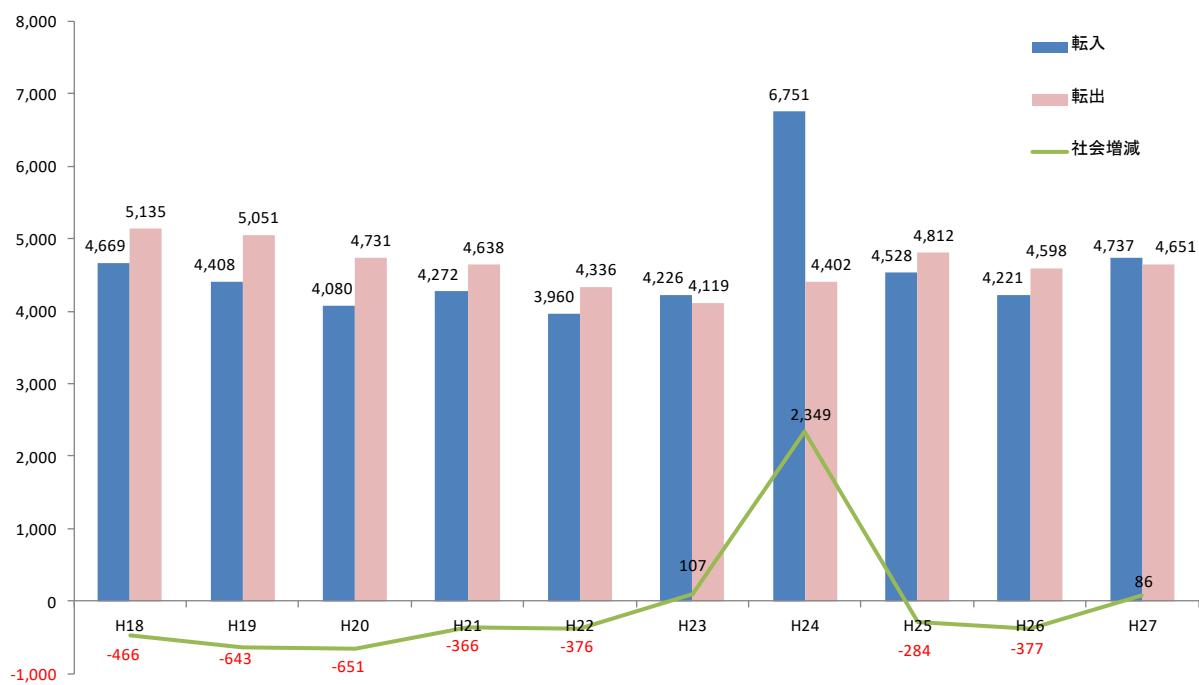
① 数値目標設定の考え方

中心市街地の居住人口の社会増減については、過去のデータは無いが、直近1年間では33人の減少（うち29人が市内他地域への転居による減少）となっている。一方、市全体における社会増減については、平成27年は増加に転じており、平成28年に入ってからも社会増が続いていることから、近年高岡市は居住地として選ばれる傾向にあると言える。

中心市街地においても居住環境の向上や、高岡駅周辺での共同住宅建設の動きが活発化するなど今後住宅の供給が進めば、居住人口の社会増を図ることは十分可能であり、各事業の実施による効果で600人の社会増を数値目標として設定する。



【参考】高岡市における社会増減の推移（住民基本台帳：各年12月末）



（注）平成24年7月の住民基本台帳法改正により同年以降の数値には外国人を含む。

② 数値目標達成に向けて実施する事業の概要

まちなか居住推進総合対策事業により、「まちなか区域」での個人への住宅・マンション・土地購入・リフォーム支援を引き続き実施する。併せて、まちなかでの共同住宅の建設に繋がるよう、建築業者への住宅供給に対する支援を行う。また、

中心商店街では、共同住宅と商業・公益施設の複合ビルを整備する。更には住環境の向上を図るため防災対策の強化や、空き家に対する利活用を含めた総合的な対策を進める。

③各事業の実施による効果

i) 居住人口の社会増に直接的に寄与する事業

ア. まちなか居住推進総合対策事業による増加

220人

a) まちなか居住推進総合対策事業

高岡市では、平成19年度から中心市街地のうち特に人口、世帯数の減少がみられる高岡駅北側の約263ha(平成26年度からは金屋地区を含めた約270haに拡大)を「まちなか区域」に指定している。個人に対しては、区域内の住宅の新築及び戸建住宅や共同住宅の取得に対する支援制度(「まちなか住宅取得支援事業」)を創設した。平成23年度からは支援対象を中古住宅・中古マンション・隣接土地購入に拡大している。

更に平成26年度からは、支援事業の総称を「まちなか居住推進総合対策事業」とし、中古住宅・隣接土地の購入支援の補助要件の緩和、購入した隣接土地上の建築物の除却支援制度の創設、耐震改修に伴うリフォーム支援(「まちなか耐震住宅リフォーム支援事業」)の補助上限額の引き上げ、リフォーム支援制度(「まちなかエコ・バリアフリーリフォーム支援事業」)の創設を行っており、中古住宅の購入に併せたリフォーム支援を実施している。

これらの支援事業のうち居住人口の社会増につながる「まちなか住宅取得支援事業」の利用は、平成27年度までで124件となっている。こうしたまちなか居住に対するニーズは、本計画期間においても同程度存在すると考えられることから、過去5年間と同水準の利用を見込む。

《事業実施効果》

過去5年間のまちなか住宅取得支援事業の利用件数 88件

定住に寄与した人数 223人

今後5年間も同程度の利用件数があると見込む 220人

イ. まちなか共同住宅建設促進事業による増加

160人

a) まちなか共同住宅建設促進事業

「まちなか区域」において、建築事業者に対して、分譲又は賃貸の共同住宅を建設する際の支援を行っている。

過去、本制度の活用により、中心市街地内において分譲マンション1棟、および賃貸マンション1棟の建設が行われた。現在は平成29年春の完成予定で市営白金駐車場跡地での賃貸マンション建設が行われているところであ

る。これに加え、本計画期間内に高岡駅前東地区での共同住宅の建設が見込まれている。

《事業実施効果》

○実施が確定しているもの

賃貸マンション(平成29年春完成予定)	A	28	戸
中心市街地における1世帯当たりの人員数	B	2.25	人
ファミリーと単身者の割合を半々と想定			
増加数		約46	$A \div 2 \times B + 14$

○実施が見込まれるもの

民間住宅(高岡駅前東地区)	A	70	戸(想定戸数)
中心市街地における1世帯当たりの人員数	B	2.25	人
ファミリーと単身者の割合を半々と想定			
増加数		約114	$A \div 2 \times B + 35$

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による増加

220人

a) 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）

平成31年春に共同住宅（98戸）、商業施設、公益施設が入る複合ビルが完成する。

《事業実施効果》

分譲マンション	A	98	戸
中心市街地における1世帯当たりの人員数	B	2.25	人
全戸ファミリー向け			
増加数		約220	$A \times B$

ii) 居住人口の社会増に間接的に寄与する事業

エ. その他の事業による波及効果

中心市街地の居住人口の社会増を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 良好な住環境形成に関する事業

良好な住環境の提供を図るため、高岡市景観計画（景観法に基づく）に位置付けている重点地区や高岡市町並み保存・都市景観形成に関する条例により指定している景観形成重点地区への支援を行うとともに、まちなかにおける防災対策の強化や地籍調査を実施することにより、住みよいまちづくりが推進され、居住人口の社会増が期待できる。

- ・池の端景観形成重点地区建物修景等助成事業
- ・坂下町通り景観づくり住民協定地区修景等助成事業
- ・まちなか耐震住宅リフォーム支援事業
- ・まちなか優良賃貸住宅補助事業
- ・まちなかエコ・バリアフリーリフォーム支援事業
- ・まちなか防災モデル事業（博労地区）
- ・地籍調査事業

b) 空き家対策に関する事業

中心市街地に多数ある空き家について、利活用を含めた総合的な対策を進める。併せて、空き家を移住者への住居として活用することにより、居住人口の社会増が期待できる。

- ・移住促進のための空き家改修支援事業
- ・地域ぐるみ空き家対策モデル地区支援事業
- ・空家等対策計画に基づく事業
- ・金屋町定住体験施設整備事業
- ・金屋鋳物師町交流館整備事業

c) 生活支援に関する事業

居住環境の充実のため、最寄品のうち、特に生鮮食料品を扱う店舗の開設を支援するほか、地産地消への取り組みとともに安心で安全な生鮮食料品を中心市街地で提供するため朝市・夕市を開催するなど、買い物の利便性向上を図る。また、育児相談や交流の場の提供による子育て支援環境の充実や若者による定住につながる新規の事業・イベントに対し支援を行うなど、住みよいまちづくりを推進することにより、居住人口の社会増が期待される。

- ・中心市街地における開業支援事業
- ・朝市・夕市の開催
- ・高岡子育て支援センター運営事業
- ・若者チャレンジ応援事業
- ・賑わい集積開業等支援事業

iii) 中心市街地における居住人口の社会増減数目標値（まとめ）

居住人口社会増減数内訳		増加数
ア	まちなか居住総合対策事業による増加	220人
イ	まちなか共同住宅建設促進事業による増加	160人
ウ	中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による増加	220人
合計		600人

よって、目標となる居住人口の社会増減数は、下記の通りとなる。

(H33 年度末目標値)

600 人増 (H29~33 年度の 5 年間の累計)

【令和 2 年 3 月変更時の状況】

まちなか住宅取得支援事業、まちなか耐震住宅リフォーム支援事業、まちなかエコ・バリアフリーリフォーム支援事業の 3 事業を統合・拡張し、令和元年度からそれらに三世代同居リフォームを加えたたかおか暮らし支援事業を追加することで、目標指標「居住人口の社会増」目標値 600 人の達成に寄与することから、事業追加を行う。

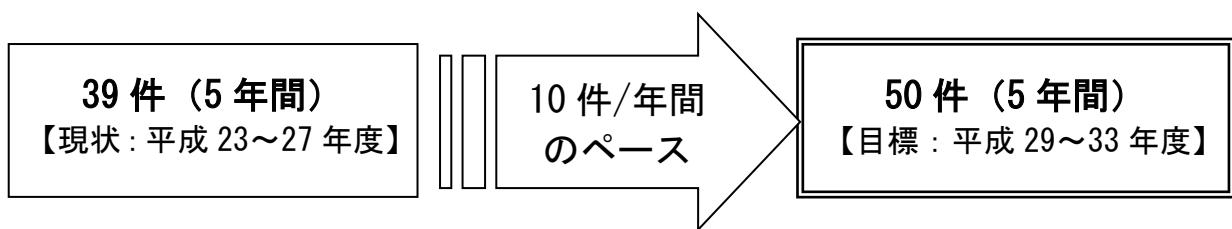
④ フォローアップの考え方

居住人口の社会動態は、高岡市の住民基本台帳により毎月末ごとに集計している。この数値を根拠として、中心市街地の社会増減の数値目標の達成状況を確認する。あわせて、事業について毎年度進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

B 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数

① 数値目標設定の考え方

中心商店街では、開業支援制度により新規開業店舗が増加し、空き店舗の減少に寄与してきた。また、観光地周辺では、特に近年においては、北陸新幹線開業に伴い増加している観光客を目当てに新規開業店舗が増加している。本計画では平成 23 年度から 27 年度の 5 年間の平均である年間約 8 件のペースを、近年の傾向や今後実施する事業の効果を踏まえ、年間 10 件のペースで増加させる。



② 目標達成に向けて実施する主な事業

開業支援事業により新規出店者や大家への支援を行うとともに、観光地及び中心商店街においてテナントスペースがある新たな施設の整備を実施する。

③ 各事業の実施による効果

i) 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数に直接的に寄与する事業

ア. 開業支援事業による効果

40 件

【令和4年3月変更時の状況】

中心市街地における開業支援事業、観光地における開業支援事業、中心市街地におけるオフィス開設支援事業を含む4事業を統合・拡張し、令和3年度から「賑わい開業等支援事業」を実施することで、目標指標「中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数」目標値50件の達成に寄与することから、事業追加を行う。

a) 中心市街地における開業支援事業

中心商店街において新規開業希望者に対する店舗改装や家賃への補助、また、空き店舗所有者に対して店舗改修補助を行うことで、空き店舗を活用した開業を促進する。本計画では新たに高岡駅北側のエリアを重点支援区域として設定し、支援内容を手厚くして新規開業店舗数の増加を図る。

《事業実施効果》

過去5年間に本制度を活用して新規開業した店舗数：25件、年間平均5件
5年間で25件

b) 観光地における開業支援事業

観光地周辺（瑞龍寺、八丁道、大仏、山町筋、金屋町）において新規開業希望者に対する改装や家賃への補助、また、空き物件所有者に対して改修補助を行うことで、空き物件を活用した開業を促進し、新規開業店舗数の増加を図る。

《事業実施効果》

過去5年間に本制度を活用して新規開業した店舗数：10件、年間平均2件
5年間で10件

c) 中心市街地におけるオフィス開設支援事業

中心市街地へのオフィスの誘導を図るため、一定要件を満たすオフィス入居者や物件所有者を支援し、新規開業店舗数の増加を図る。

《事業実施効果》

過去5年間に本制度を活用して新規開業した店舗数：4件、年間平均約1件
5年間で5件

上記 a + b + c = 25 + 10 + 5 = 40件

イ. 歴史的資産を活用した町家再生事業による効果

8件

a) 歴史的資産を活用した町家再生事業

再生を行う町家内に、テナントスペースを整備し、需要が多い山町筋エリアにおける手頃なテナント物件の供給を行う。

«事業実施効果»

町家内に8区画のテナントスペースを整備する 8件

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による効果

2件

a) 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）

平成31年春に共同住宅、商業施設、公益施設が入る複合ビルが完成し、商店街において新たなテナントスペースが生まれる。

«事業実施効果»

複合ビル1階に2区画のテナントスペースを整備する 2件

ii) 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数に間接的に寄与する事業

エ. その他の事業による波及効果

中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 営業支援に関する事業

開業店舗や既存店舗が永続的に営業できるよう、研修会や専門家派遣支援等での商売の支援を行うとともに、核となる大規模小売店舗の立地促進ややる気のある商店主の活動を支援することにより、新規開業店舗数の増加が期待される。

- ・第一種大規模小売店舗立地法特例区域の設定
- ・中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業
- ・個別商店街の活性化事業
- ・元気たかおか未来会議の開催
- ・各種ゼミ・研修会等の開催
- ・まちづくり資金支援事業
- ・賑わい集積開業等支援事業

b) 拠点施設の整備・運営に関する事業

新たな核となる施設が整備されることにより賑わいが創出され、周辺への波及効果により新規開業店舗数の増加が期待できる。

- ・旧赤レンガの銀行活用事業
- ・高岡駅前東地区整備事業
- ・富山県高岡看護専門学校運営事業
- ・勤労者福祉サービスセンター移転・運営事業
- ・金屋鑄物師町交流館整備事業
- ・まちなか第2SOHO支援オフィス整備事業

・高岡地域地場産業センター運営事業

iii) 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数の目標値（まとめ）

新規開業件数内訳		開業件数
ア	開業支援事業による効果	40 件
イ	歴史的資産を活用した町家再生事業による効果	8 件
ウ	中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による効果	2 件
合計		50 件

よって、目標となる新規開業店舗数は、次の通りとなる。

(H33年度末目標値)
50 件 (H29～33年度の5年間の累計)

④ フォローアップの考え方

新規開業店舗数は、開業支援制度を活用して開業した店舗数を毎年度把握とともに、これまで実施していた空き店舗調査をまちづくり会社と連携しながら継続して実施するなど、中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗の把握を行う。あわせて、事業について毎年度進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。